

2014年1月15日

第669回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 日覺 昭廣 東レ株式会社 代表取締役社長）は、本日11時より第669回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

1. 日仏繊維産業協力WGについて

11/24（日）～29（金）の6日間、繊維クラスター（Techtera、UpTex）を中心とするフランス代表团（8名）が訪日し、①日仏繊維協力WG・フォローアップ会合、②企業・大学の施設訪問、③化繊各社とのBtoB会合を行った。

フォローアップ会合は、第2回WGに向けた準備会合の位置づけで開催し、両国から産官学の関係者が集い、6月の会合（パリ）で提案された協力テーマ（特に、日仏共同プロジェクト発掘）の具体的進め方について協議した。手法の詳細は、引き続き調整していくが、「日本の先端繊維素材とフランスの加工技術による新規市場開拓」を、フランスを中心とする欧州の出口分野のリーディング企業を取り込んで進めることを日本側より提案し、両国のベクトルを合わせることができた。

この他、日本の化繊各社（10社）とフランスのユーザー企業（5社）が参加して計28件の面談（BtoB会合）を行った他、企業・大学の施設訪問を行うなど、テクニカルテキスタイル分野での交流を深めた。

経緯：日仏産業協力委員会・日仏繊維協力WG：日仏産業協力委員会は、1980年代初めに、中曽根首相（当時）とバール首相（当時）との間で、当時両国の懸案となっていた「貿易摩擦」を終わらせ、建設的な両国関係を築くために「産業協力」をその中核に据えようとの趣旨で設置された日仏協議の場。2012年12月開催の日仏産業協力委員会において、日EU・EPAを円滑に進めるためにセクター別の産業協力をフランスとの間で進めるべきとの日本側の判断の下、繊維、ロボット、スマートコミュニティの3分野でセクター別WGを設置することが合意され、2013年3月29日に第1回日仏繊維協力WG（キックオフミーティング）を開催した。以降、6月18日にパリ、11月28日に東京で、実務者レベルでのフォローアップ会合を2回開催している。

2. エコプロダクツ展 2013 への化繊協会ブース出展と 記念シンポジウムでの特別講演について

第 15 回目となる「エコプロダクツ 2013」が昨年 12 月 12 日（木）～14 日（土）の 3 日間、東京ビッグサイトにて約 17 万人の来場者を集め、盛大に開催されました。

化繊協会コーナーでは、9 社（帝人、東レ、クラレ、東洋紡、旭化成、ユニチカ、三菱レイヨン、セーレン、ダイワボウ）が参加して、「グリーンな未来へ ～進化
する化学せんい」のテーマで、10 回目となる展示を行いました。

環境問題に役立つ高機能繊維への関心は、一般層・ビジネス層を問わず年々高まっており、より詳しい説明を求めてくる来場者が増えていることから、前回初の試みとして好評だった「教室形式」のブースを拡充して、一日あたり 5 回「化学せんいおもしろ実験教室」を開催。3 日間計 350 名程度が参加して、盛況でした。

また、初日の午後で開催された「エコプロダクツ 2013 記念シンポジウム」（場所：東京ビッグサイト・国際会議場）では、日覺会長より「先端繊維素材による環境分野への貢献～グリーンな未来に向けて～」と題する特別講演を行い、こちらも約 1,000 名の会場が満席となるなど、大変盛況でした。

3. 第 4 回 日経電子版広告賞・大賞の受賞について

化繊協会が 2013 年 1 月 21 日～3 月 31 日に日経電子版 WEB サイト上で開催した先端繊維素材展示会が「第 4 回日経電子版広告賞大賞」を受賞しました。

同展示会には化繊協会より 10 社（帝人、東レ、クラレ、東洋紡、旭化成、ユニチカ、三菱レイヨン、セーレン、ダイワボウ、カネカ）およびカケンテストセンターの計 11 社・団体が参加し、当初予定を上回るアクセス来場者を得るなど好評を得ました。

授賞式は昨年 12 月 9 日（月）にグランドプリンスホテル新高輪で開催されました。化繊協会を代表して日覺会長が賞状を受け取るとともに、展示会の様子が会場で一部紹介されました。

受賞にあたって真野英明 審査委員長より、「インターネットの WEB サイト上で展示会を開催し、加盟各社の情報を発信するという企画力が優れている。資料をダウンロードできる機能など WEB の特性を生かした事例といえる。今後もこうした手法は広がるだろう。」とのコメントがありました。

4. 信州大・博士課程リーディングプログラム「キックオフフォーラム」 でのステークホルダー代表挨拶について

信州大学では、文部科学省の人材育成補助事業「博士課程教育リーディングプログラム」の「オンリーワンリーダー養成」に、『ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成（Global Leader Program for Fiber Renaissance）』のテーマで5月に申請していましたが、これが平成25年度事業として採択されたことから、昨年12月13日にホテルニューオータニ（東京都千代田区）にて同プログラムのキックオフフォーラムを開催しました。

信州大学の文部科学省への申請の際に、化繊協会は産官学連携機関としてステークホルダーとなっていることから、同フォーラムにて伊藤副会長（株式会社クラレ代表取締役社長）より、『博士課程教育リーディングプログラムへの期待』としてステークホルダー代表挨拶を行いました。

産業界の立場で、①日本の繊維産業の変遷と技術力・技術開発事例、②欧州での技術開発および人材育成事例、を紹介した上で、③企業が期待する人材像、④リーディングプログラムへの期待について約45分の講演を行いました。

また、来賓祝辞として、猪俣 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長、片岡 経済産業省製造産業局繊維課長より挨拶がありました。

5. 北九州イノベーションギャラリーでの繊維展示会について

化繊協会では、情報発信事業の一環として2014年3月21日（金、祭日）～6月29日（日）に北九州イノベーションギャラリーにて繊維展示会を開催することになりました。

北九州イノベーションギャラリーは、北九州市一円の青少年への次世代啓発を目的に北九州市が設置した展示施設で、今回、「繊維」をテーマとした展示企画（特に若年層への繊維産業の啓発）を進めるにあたり化繊協会に協力依頼があったものです。この取組には、日本紡績協会、羊毛紡績会も参加いたします。

展示内容は、「ヒューマン（人間）」「エコロジー（循環）」「テクノロジー（技術）」「フューチャー（未来）」の4つをテーマとし、化学繊維、天然繊維、地場の小倉織など幅広い素材を対象とし、衣料～工業繊維にわたる包括的な用途分野における我が国の繊維技術革新の驚きの数々を紹介するものといたします。また、小中学生が「繊維とは」を理解しやすいよう、見て、触って、体験できることに重点をおいて企画を進めています。

6. 2013年の内外の化学繊維生産動向について

2013年の世界の化学繊維生産動向について、日本化学繊維協会が各国の至近の発表値をもとに推定し、その報告を行いました。概要は以下の通りです。

2013年の世界の繊維生産は前年比2%増の8,449万トンと史上最高を記録しました。しかし伸び率は、綿の生産が減少したことから3年連続で縮小しました。

化学繊維は6%増の5,762万トンと過去最高となりました。内訳は合繊（オレフィン繊維を除く）が5%増の5,271万トン、セルロース繊維（アセテート・トウを除く）が13%増の491万トンと中国を中心に大幅に拡大しました。一方、綿は5%減の2,564万トンと減少しました。

化学繊維の国・地域別生産は、中国が7%増の3,922万トンと増加し、世界生産に占める比率も前年の67%から68%に拡大しました。またインド、ASEAN、米国が増加した一方、西欧、韓国、日本は減少しました。

主要品種では、いずれの品種も増加しました。ポリエステルはフィラメントが7%増の3,051万トン、同ステープルが2%増の1,478万トン。ナイロンは4%増の414万トン、アクリルステープルが3%増の200万トンでした。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 竹内・川名（03-3241-2312）

以上